

腰痛 ミステリアスな難敵



ヘルス&ケア

⑧ 慢性腰痛症に対する手術治療

手術でない保存的治療で症状の改善がみられない患者さんに対して、手術治療がある。

手術より軽い治療で高周波熱凝固法がある。痛みの原因部位である可能性の高いところへ端子（注射針程度の細さの針）を刺入し、高周波を発生して痛みを過剰に感じる神経の機能を低下させる。長期間効果があってもあるし、数カ月で再発することもあり、その場合もう一度同じ手技ができる。

手術でよく行われているが、腰椎の変形性脊椎症に対しては、あまり手術が行われない傾向にある。人工関節置換術は疼痛が軽減する確率が高いのに対して、腰椎ではあまり高くないからだ。腰椎で疼痛が軽減する率が高くないのは、腰痛症では心理社会的要因が関与する可能性が高い

ここで述べる手術は一般的な腰椎疾患に対してでなく、慢性腰痛症に対しての手術治療だ。さまざまな方法があるが、基本的な概念は同じである。痛みの原因になっている椎間板を取り除いて、そのスペースに椎間板の代わりとなる



負担軽減されたが完治保証はなし

るスペースを挿入し、その周囲に本人の骨を移植する。腰椎にスクリューを刺入して、それにより腰椎をよい位置に保っておく。その後、移植骨が周囲の骨と癒合して腰椎がよい位置で安定する。以前は大きな傷で1カ月以上の入院が必要であったが、近年は小さい傷でできるようになり、入院期間は10〜14日程度である。

人工椎間板手術もあるが、日本では保険適応でない。海外では人工椎間板手術がよく行われた時期もあったが、手術効果は素晴らしいものではないようだ。

これらの治療により腰痛が必ず改善するものでないことに理解が必要。慢性腰痛症では心理社会的要因が関与している率が高いためだ。名医にかかれば必ず腰痛が治るような医療報道にも問題がある。医者にもスポットを当てた娯楽番組なのに、視聴者は腰痛の学術番組と受け取っている可能性が高い。すべての人が手術で治ると誤解してしまう。

(岩井整形外科内科病院 湯澤洋平副院長)